

<出席委員会>

鈴木委員長

	会員	出席	欠席	マーク	出席率
第1625回	43*	33	10		76.74%
第1624回	43*	32	11	3	81.40%

*出席免除会員2

<ロータリー財団>

井上勇委員長

白井会員→「妻の誕生日、お花をありがとうございました」。

<米山奨学委員会>

中島健児委員長

確井会員→「入会祝い、ありがとうございます。今年度達成」。寺尾会員→「入会記念として。今年度達成」。田内会員からいただきました。まだ目標を達成していない方は、よろしくお祈りします。

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	27件	27,000円	1,000件	1,144,245円
財団	1件	10,000円	24件	230,000円
ベネファクター	0件		2件	156,000円
米山	3件	35,000円	35件	438,000円

本日のプログラム

<会員卓話～岡倉天心について>

大矢会員

昨年の大震災の津波で、茨城県の五浦の六角堂が流されたニュースがありました。この六角堂を建てた岡倉天心は来年、生誕150年ということもあり、様々な催物が近日予定されています。本日はその岡倉天心についてスライドを交えながらお話しします。

天心は文久2年に生まれながら、明治初期の頃には英語堪能で、「茶の本」や「東洋の理想」といった本を英文でロンドンやボストンで発行しています。まさに時代を先取りしている人です。

天心は、校長になっても馬に乗って現在の裁判官のような格好をしていたような、少し変わった方のようなようです。若いときは身長が180cmほどの大きくすらりとした今の玉三郎のような面差しです。

東京大学の第1期生で、もともとは経済・金融方面に興味を持っていました。卒論で「国家論」を選択したのですが、後の妻になる女性が提出期限直前でやきもちからそれを燃やしてしまったのです。困った天心は「美術論」に変更し、その後文部省へ入省することになります。ちょっとしたことで人生は、がらりと変わっていくものです。

明治に入り輸出入業を営み始めた父親の影響で、6歳で英語を習い始めてはいますが、語学のセンスが素晴らしかったのだと思います。彼の書いた「欧州

視察日記」にその片鱗がみられます。

明治22年に東京美術学校(現・東京藝術大学美術学部)の校長になりました。そのころに天心はフェノロサと一緒に全国を周り現在の国宝・重要文化財を決めています。信じられないことに彼は物を見るとき一つの時代の物か分かったといいます。「天心」という名は服を脱ぐと心臓の辺りに疣がいくつかあり遠目にみると「天」と見えたことから自ら面白がってつけた名前とされています。

彼は様々な人に影響を与えています。特に横山大観にとって、天心は師匠としてだけでなく父親のような存在だったのではないのでしょうか。日本の近代絵画の中で、大観は作品だけではなくスケールの大きな画家だと思います。大観の作品で人生そのものを描いているかのような「生生流転(1923年)」は名作です。この絵を描いていた時に関東大震災に遭った大観は、これだけを抱えて逃げたそうです。現在は重要文化財ですが、将来的には国宝になるのではないのでしょうか。私と大観先生との関わりは、1955年私が院展に初入選した時です。初入選では考えられないほどのよい場所に飾られた私の作品の近くの部屋に先生の作品が展示されていたのです。

他にも、名声を手にしながらかつて往年には奮わずに、文部大臣が発した「絵描きを辞めてしまえ」といった新聞記事をしつかりと持ち続けた下村観山。荒荒しい中にも気品を感じられる武者絵で有名な小堀鞆音。デザイン的にも大胆なロマンのある絵を描いた今村紫紅。大観の右腕とも言われたが、失明し39歳で亡くなった菱田春草。

このように天心は様々な分野において色々な人を育ててきました。彼は、自身が東洋美術に対しても美意識が高い人でもあり、日本の美意識の素晴らしさを世界に紹介した人でもあります。「茶の本」の中で「美しいものというのは、宇宙に存在する生命の原理とか花の色彩とかそういう様々な中にあり、芸術家の精神を自ら写し取る。その中で学問も一期一会である。永くはない。でもその一回の中に自分の生命がありそれが次の時代に続いていく」といっています。来年は生誕150周年で神奈川新聞中心で様々なイベントが予定されています。皆さんもこの機会に岡倉天心の心を摘んでください。

